

## 令和8年第7回 魚津市教育委員会会議録

### 1 開催日時及び場所

令和8年8月7日（火） 場所 第一分庁舎会議室  
午後4時00分～午後4時50分

### 2 出欠について

教育長 山 瀬 敬  
1 番 伊 東 潤一郎  
2 番 山 浦 春 美  
3 番 片 山 さゆり  
4 番 松 本 修 治

### 3 出席職員

|               |         |             |           |
|---------------|---------|-------------|-----------|
| 事 務 局 長       | 田 中 明 子 | 事 務 局 次 長   | 寺 崎 修     |
| 事務局次長兼教育総務課長  | 村 崎 博   | 生涯学習・スポーツ課長 | 高 森 哲 也   |
| 兼学校給食センター所長   |         | こ ども 課 長    | 米 島 智 晴   |
| 図 書 館 長       | 小 林 幹 子 | 水 族 博 物 館 長 | 清 水 悟 史   |
| 埋 没 林 博 物 館 長 | 石 須 秀 知 | 総 務 係 長     | 谷 口 友 美   |
| 学 校 教 育 係 長   | 濱 田 剛 宏 | 生涯学習・文化係長   | 布 野 久 美 子 |
| ス ポ ー ツ 係 長   | 廣 川 哲 也 |             |           |

### 4 傍聴人 なし

### 5 会議の要旨

午後4時00分 山瀬教育長が開会を宣言する。

#### （1）会議録署名委員の指名について

3 番 片山委員を指名した。

#### （2）前回会議録の承認

全員異議なく承認した。

#### （3）議案

議案第22号 新川文化ホールの指定管理者の募集について

布野生涯学習・文化係長から説明し、全員異議なく可決した。

#### （4）報告事項

- （1） 学力調査の結果について
- （2） 部活動の地域展開について

## 議 案

### 【新川文化ホールの指定管理者の募集について】

|      |                                                                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 伊東委員 | 令和6年度に募集した当時、3年分の芝生管理の費用は含まれていたのでしょうか。今年度、工事により芝生の管理が不要となっていると思いますが、管理不要となった部分の費用は返してもらえるのでしょうか。                                                             |
| 高森課長 | 厳密に言えば返してもらうべきところですが、令和5年度の募集時期には見込めなかった工事であったため金額の変更は行っていません。                                                                                               |
| 田中局長 | 令和5年度に令和6～8年度分の契約を募集していますが、「令和8年度の工事に伴い、芝生管理が少なくなる」ことは見通せていませんでした。一般的な委託契約であれば、使わなかった分を戻してもらうルールになっていますが、指定管理についてはそうではないため、矛盾は感じられるかもしれませんが、そのような仕組みとなっています。 |
| 教育長  | 教育委員会から、このような意見があったことについて、局長から伝えていただければと思います。                                                                                                                |

## 報告事項

### 【学力調査の結果について】

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育長  | 課題等ありますが、市の教育委員会が学校への支援と、学校が自校の実態をどのように捉えて授業改善に生かしていくかが大事かと思います。この結果については、採点の仕方がIRT（項目反応理論）に変わったので、これまでのものと比較できない部分があるのですが、今年の中3・小6については、全国平均であったという結果かと思います。今年からは、9月の民生文教委員会で資料を提出したいと思っていますので、ご了解いただけますか。                                                                                                      |
| 伊東委員 | 中学校の国数英の結果について、5頁以降、国県と魚津市の平均が出ている。一番下ですが、未回答率は高ければ悪く、正答率は高ければ良いという見方で良いですか。そこで、全然わからないところがあるのですが、6頁の英語の評価が、例えば国県の評価に対して魚津市は80.7%プラスの要素があり、次の項目で国県で63%に対し、魚津市は71%とあります。一番最後に国県の28.2%に対して、魚津市が37%とあります。この数字の差に対して、2頁に戻ったときに、英語の点数がそれほど差が無く、全国平均499点に対して魚津市は504点となっています。比較すると約1%程度良好な点数であると考ええると、評価(%)の差ほどではないですね。 |
| 寺崎次長 | 実は「公表されている問題」と公表されていない問題があります。子ども達が選択して解いている問題もあり、全員が共通した問題を解いているわけではありません。難易度を付けることで、どのような問題であっても比較をすることができるようになっています。                                                                                                                                                                                          |
| 伊東委員 | 例えば、「日常的な活動について自分の置かれた状況があとから判断して必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる」という英語の課題については、「国や県よりも魚津市の子ども達は10%以上優秀です」という数字と思いますが、それは「問題の難易度によって変わるからその数字は全く意味のない数字ですよ」ということになってしまいませんか。                                                                                                                                              |
| 山浦委員 | 正解数に関わらず、難易度の高い問題の正解が多ければ、評価が高くなるというこ                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|      |                                                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 伊東委員 | とですか。<br>学力調査の目的は何で、どのような課題を解決するためにやっているのか、としたら、先生方は納得できているのでしょうか。点数で一喜一憂するのではなく、4点、5点くらい良くても誤差みたいなものですよね。どう理解していけばよいのかわからなかったです。 |
| 寺崎次長 | 読む、書く、聴くを分けて分析していけば、もう少しわかってくると思います。                                                                                              |
| 山浦委員 | 今回は英語だけだったのですよね。                                                                                                                  |
| 寺崎次長 | 去年は理科で、今年は英語でした。                                                                                                                  |
| 教育長  | 伊東委員は本質的なことをおっしゃっていると思います。教育委員会や学校はこの結果を見て、どこをどう改善を図るか、教育センターの分析も踏まえて色々な疑問点について、今後お話ししましょう。                                       |

### 【部活動の地域展開について】

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 松本委員 | 部活動の地域への移行が令和5年度から始まり、これまで非常に苦勞をしながら進めてこられたと思います。部活動の改革は30～40年前から進められ、正直、これまでうまくいきませんでした。もっと前向きに子ども達の部活動環境を整える、という考え方を持つ方々もたくさんおられると思います。一方、この部活動の改革のきっかけは、教員の働き方改革の一環として、教員の負担軽減のために始まったという印象を地域で持たれているのではないかと懸念しています。これまでの流れを理解していただいたうえで進めていかなければ、誤解が生じますし、協力も得られにくいと思います。受け皿となっている競技団体や地域の方々の反応はどのようになっていますか。 |
| 上坂主査 | 改革推進機関の前の段階は、働き方改革が中心でこのような話が出てきましたが、それだけでなく、少子化への対応がメインとなっています。令和5年度当初の協議会で「先生方の負を私たちが背負うのですか」という意見もありました。ただ、生徒の数が少なくなり、競技団体そのものが魚津市から無くなってしまうという危機感をようやくわかっていただき、今は、多くの方は前向きに捉えておられると思います。指導以外に、運営（世話、手続きなど）をすることが非常に負担であるという話も伺っています。                                                                          |
| 教育長  | これまでの課題や新たな課題もありますが、究極的には、市として学校や地域、指導者、保護者のみなさんと、子ども達の成長をどのようにみていくかということが問われているのかと思います。委員さんのご指摘もごもっともだと思いますので、丁寧に進めていきたいと思います。                                                                                                                                                                                   |
| 松本委員 | 部活動については、学校教育活動の一環として教育的意義がある活動だということは言い続けられてきています。ただ、適正な運営がなされている場合の話です。部活動の運営は、これまで先生方が技術指導と運営指導の両方をしてこられていて、少なからず部活動を担当することにとっても悩まれたと思います。私は自分の好きな競技を教えられることに喜びがありましたが、ほとんどの先生は、やった事の無いことを教えることにプレッシャーがあったと思います。地域の知識を持った方に指導をしていただける環境を作り上げ、やらされるのではなく、子ども達がやりたいと思い、自分たちで選ぶことができ、楽しい思いながら続けられるような環境を          |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 山浦委員<br>上坂主査 | <p>作るようにしなければいけないと思いました。</p> <p>文化部については、地域移行とはならないのですか。</p> <p>文化部も文化庁が中心となり、地域展開を進めています。まずは休日の部活動を地域展開しようということで、吹奏楽部は令和 10 年度くらいを目途に考えています。平日しか活動していない部活動についても考えなければならないのですが、もしかしたら、違うニーズがあるかもしれないです。例えば、パソコンが上手になりたくてきている子と、放課後に友達とパソコンを通じて楽しんでいる子、ということが考えられます。学校ではなく、地域展開としてどれだけのニーズがあるのかは検討していかなければならないと思っています。</p> |
| 伊東委員         | <p>他の会議で言われるのですが、「子ども目線で資料を作ってみたら、見え方が変わる」という話がありました。我々の目線でしか見ていないと思いますが、所属する子ども達や保護者の目線で「クラブ活動してみたい」「こんな風になっているんだ」ということがわかるようにやってみると、また違ったものが見えてくると思いますのでできれば試してみてもらえれば良いと思います。</p>                                                                                                                                      |

議事が終了したので教育長が閉会を宣した。